

昭和区社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画 第1回策定委員会 記録

平成20年3月26日(水)14:00~15:15

昭和区在宅サービスセンター 研修室

【出欠】 出席13名・欠席3名

1 委員長、副委員長の選出

委員長に浅井昌則委員、副委員長に原田正樹委員が選出されました。

2 第2次地域福祉活動計画について

[資料1]

- ・ 策定方針とスケジュール
- ・ 策定体制（作業部会名簿、専門職部会名簿）

資料1により事務局から説明しました。

<2次計画で大事にするポイント>（原田先生より補足）

- ① 職員全員参加 社協職員全員がなんらかの形で計画策定に関わることによって、全職員が計画の推進に責任を持つことが大事。
- ② 作業部会 計画を作っていくプロセスを大切に、住民が数多く関わるように作業部会を開催して、議論を積み上げる。
- ③ 専門職部会 保健・医療・福祉の専門職が集まり、ワンストップサービスの総合相談ができるネットワークの仕組みを昭和区内でどう作るか検討する。

策定委員会の役割は、こうしたプロセスを重視した計画策定によって出来上がってきた計画案について、大所高所から協議していただき、総括的な視点から審議していただくことになる。

<委員から出た意見>

- ・ 策定方針のところにある、「昭和区に住んでいる人、働いている人、社協職員が元気になるような計画」とあるが、むしろ「豊かに暮らせるような」ものを目指してほしい。

⇒これから議論していく、「計画の理念」のところに取り入れていきたい。

その際に、昭和区における豊かな暮らし、をどう考えていくかも大事に検討したい。

- ・生涯学習も大切だと思うので、社会教育の関係者が参画したほうがよいのでは。
⇒とても重要な視点なので、今後はぜひ作業部会委員として社会教育の関係者に入ってもらいたい。

3 評価委員会の報告(第1次地域福祉活動計画の評価)について [資料2]

資料2により事務局から説明しました。

<長谷中先生補足>

この4年間で、昭和区に地域福祉活動を担うたくさんの人材がいることが分かった。人材の育成や活動を継続できるよう多様なサポートを行っていくことが今後の課題。社協との日常的な関わりがある人には社協の役割が理解されつつある。他方、社協との関わりがない人の認知度は高まっているといえない。多様な方法で社協と住民との関わりをつくっていくことが必要。

<委員から出た意見・主に福祉教育の推進について>

- ・昭和区の地域福祉を推進していくために、福祉教育がとても重要である。
- ・福祉教育の推進とあるが、4年前と比べて進んでいるのか。
⇒19～20年度にかけて、福祉教育関係者のネットワークやモデル事業の提示などをしかけている。
- ・すでに各学校ではそれぞれやっている。小学校で勉強したことを中学・高校につなげていけるように、長いスパンで考えていったほうが良いと思う。すぐに結果はでないが、長い視点でやり続けていくことが大切ではないか。
- ・今の子どもにどんな種まきをしていくかが、10年・20年後の昭和区を変えていくと思う。子どもから大人の生涯学習も含めての福祉教育を二次計画ではぜひ考えたい。

4 その他

- ・次回は各部会などで議論されたことを中心にして課題整理などが出来てくるので、そこでまたご意見をいただきたい。